

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-421

(43)公開日 平成9年(1997)1月7日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 47 G 35/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 47 G 35/00

技術表示箇所

A

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全4頁)

(21)出願番号

特願平7-177921

(22)出願日

平成7年(1995)6月22日

(71)出願人 591247710

西田 甲蔵

千葉県千葉市花見川区千種町96番地

(72)発明者 西田 甲蔵

千葉県千葉市花見川区千種町96番地

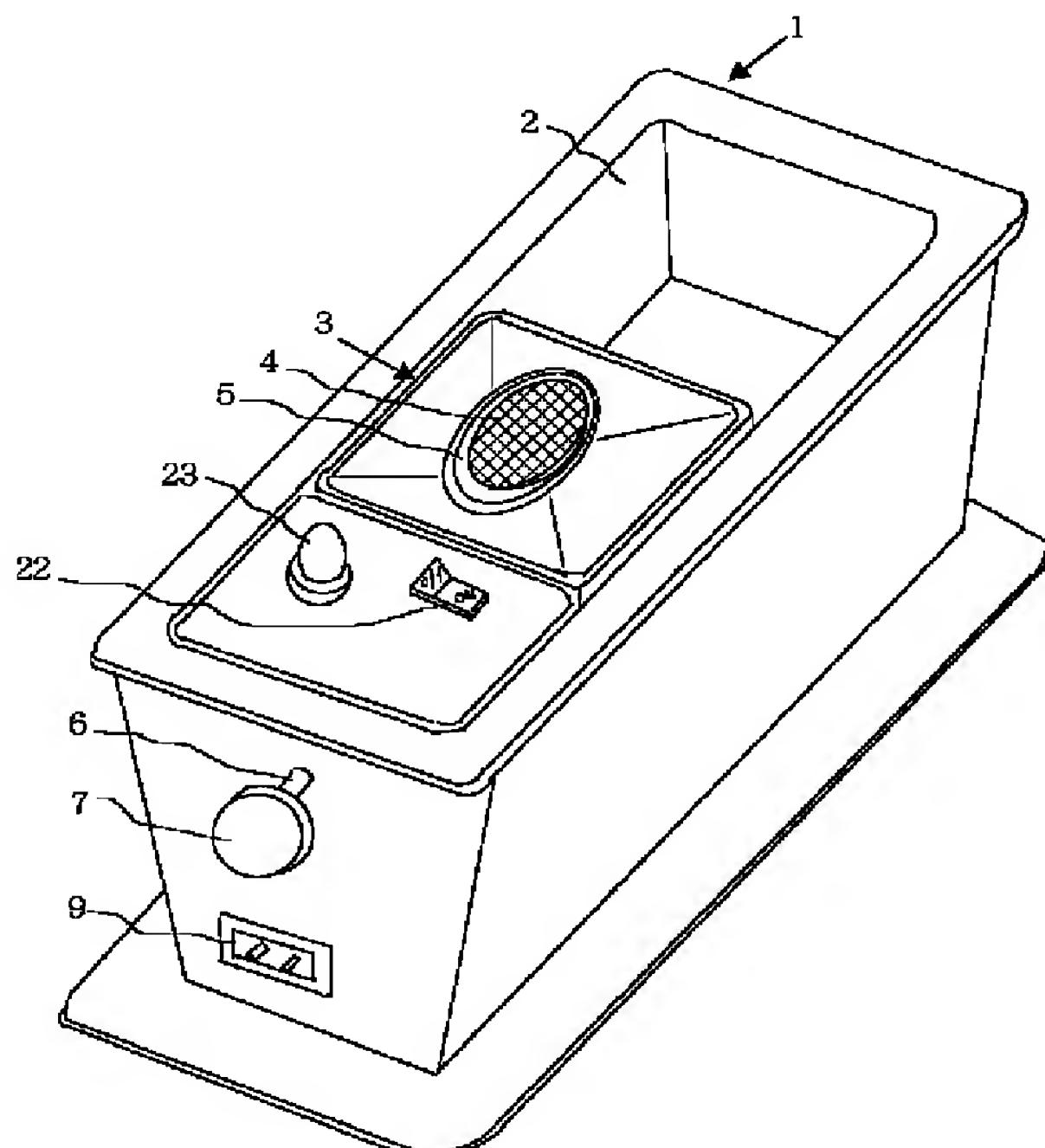
(74)代理人 弁理士 佐藤 良博

(54)【発明の名称】 電気香炉

(57)【要約】

【構成】お香収納部2とお香を燃焼させる香炉部3とを備えた電気香炉1で、香炉部3は、電源部に電気的に接続し電源部からの電圧の印加により発熱しスイッチ部2により適宜オン、オフの切換えが可能な発熱体を有する燃焼台4と、回転軸6により軸支され回転軸6の回転によりその上に載置された燃焼台4を連動して回転させることのできる回転台5と、回転台5の回転により燃焼台4から落下させる燃焼灰の灰受部とを備えてなる。

【効果】炭等の燃料を燃焼させている場合のように火が消えてしまうことがなくなる。溜った燃焼灰を外部に適宜排出できる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 お香収納部とお香を燃焼させる香炉部とを備えた香炉において、該香炉部は、電源部に電気的に接続し、該電源部からの印加により発熱し、スイッチ部により適宜オン、オフの切換えが可能な発熱体を有する燃焼台と、回転軸により軸支され該回転軸の回転によりその上に載置された前記燃焼台を連動して回転させることのできる回転台と、該回転台の回転により当該燃焼台から落下させる燃焼灰の灰受部とを備えてなることを特徴とする電気香炉。

【請求項2】 請求項1に記載の電気香炉において、灰受部が、箱体と該箱体の底部に取付けられた蓋体とを有してなり、該蓋体が該箱体から取外し可能に構成され、当該蓋体を当該箱体から取外しすることにより燃焼台からの燃焼灰を香炉外部に排出することが可能な請求項1に記載の電気香炉。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、法事等に際し、使用される香炉に関し、特に、電気香炉に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 法事等に際し、香炉が使用されている。香炉は、通常、お香（抹香）を入れておく抹香入れとそのお香を燃焼させる香炉とからなっている。当該香炉においては、お香を燃焼させるために、炭等の燃料を燃焼させている。こうした場合、当該燃料が必要時に燃焼していればよいのであるが、火が消えてしまい、お香を燃焼させることが出来ないことがある。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、かかる従来技術の有する欠点を解消することを目的としたものである。本発明の前記ならびにそのほかの目的と新規な特徴は、本明細書の記述および添付図面からあきらかになるであろう。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、お香収納部とお香を燃焼させる香炉部とを備えた香炉において、該香炉部は、電源部に電気的に接続し、該電源部からの印加により発熱し、スイッチ部により適宜オン、オフの切換えが可能な発熱体を有する燃焼台と、回転軸により軸支され該回転軸の回転によりその上に載置された前記燃焼台を連動して回転させることのできる回転台と、該回転台の回転により当該燃焼台から落下させる燃焼灰の灰受部とを備えてなることを特徴とする電気香炉に係るものであり、好みの実施態様として、当該電気香炉において、上記灰受部が、箱体と該箱体の底部に取付けられた蓋体とを有してなり、該蓋体が該箱体から取外し可能に構成され、当該蓋体を当該箱体から取外しすることにより燃焼台からの燃焼灰を香炉外部に排出することが可能ないようにしたことを特徴としたものである。

## 【0005】

【実施例】 以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。図1は、本発明の実施例を示す電気香炉の斜視図である。図2（A）は、図1の縦中央説明断面図である。図2（B）は、本発明の実施例を示す電気香炉の電気系統図である。図3（A）は、本発明の実施例を示す電気香炉の底面図である。図3（B）は、本発明の他の実施例を示す電気系統図である。

【0006】 図1（A）および図2（A）に示すように、当該電気香炉1は、お香収納部2と香炉部3とを備えてなる。香炉部3の燃焼台4は、回転台5の上に載置されている。回転台5は、回転軸6に軸支されている。回転軸6の端部には、把手（つまみ）部7が取付けられている。回転軸6には、バネ8が付勢されている。つまみ部7を回転させると、回転軸6が回転し、回転台5を、また、回転台5上の燃焼台4を連動して回転させるようになっている。つまみ部7の下部には、コンセント部9が設けられ、図2（B）に示すように、AC電源入力10の差込みプラグの受け口となっている。燃焼台4の内部には、図2（B）に示すように、例えばニクロム線よりなる発熱体11が内蔵され、発熱体11は、AC電源入力9と電気的に接続し、その電圧（パルスを含む）の印加により、発熱し、燃焼台4を加熱する。

【0007】 法事に際し、お香収納部2から香炉部3の燃焼台4の上にお香を載せると、お香は、燃焼台4上で燃焼する。燃焼台4上で燃焼したお香の灰が、溢れたら、つまみ部7を回転させると、回転軸6が回転し、回転台5を回転させ、回転台5上の燃焼台4を回転させる。香炉部3の灰受部12は、箱体13と該箱体13の底部に取付けられた窪みを有する蓋体14とを有してなる。燃焼台4からの燃焼灰15は、箱体13の底部に取付けられた蓋体14の窪みに落下してくる。図2（A）および図3（A）に示すように、蓋体14は、箱体13の底部の蓋体挿着部16に挿着され、蓋体14の下部には、蓋体支持桿17が接合されている。蓋体支持桿17の両端部は、電気香炉本体18の底部に設けられた引掛け部19に挿着されている。蓋体14の中央部と蓋体支持桿17の中央部とは、ネジ20とナット21とからなる締付け固定具にて、固定されている。当該締付け固定具の締付けを解き、蓋体支持桿17をネジ20を中心として周回させると、蓋体支持桿17の両端部は、引掛け部19から脱れ、ナット21を手の指で持って、下方向に引くと、蓋体14が箱体13から取外しされ、燃焼台4からの燃焼灰15を香炉外部に排出することが可能となる。

【0008】 発熱体11とAC電源入力9との間の電気的接続において、スイッチ部22により適宜オン、オフの切換えを行なうと、発熱体11の温度調節等が可能となる。また、標示灯23により、電源入力の有無を標示し、法事に際し、お香を燃焼台4上で燃焼する状態に入

ったことを標示させるようにしてもよい。

【0009】図3(B)は、AC電源入力に代えて、電池ボックス24内に適宜個数の乾電池25を収納するようにして、当該電池電源により、発熱体11を発熱させ、燃焼台4を加熱するようにしたものである。

【0010】上記スイッチ部22は、図示のような押込式スイッチの他、押しボタンスイッチ、断続器(水銀スイッチ)、トグルスイッチ、ロータリースイッチ等により構成してもよい。図示していないが、ブザーなどを付けしてもよい。

【0011】以上本発明者によってなされた発明を実施例にもとづき具体的に説明したが、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々変更可能であることはいうまでもない。

【0012】

【発明の効果】本願において開示される発明のうち代表的なものによって得られる効果を簡単に説明すれば、下記のとおりである。すなわち、本発明によれば、法事等に際し、従来例とは異なり、火が消えてしまうようなことがなく、常に、必要に応じて、お香を燃焼させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明の実施例を示す電気香炉の斜視図である。

【図2】図2(A)は、図1の縦中央説明断面図である。図2(B)は、本発明の実施例を示す電気香炉の電気系統図である。

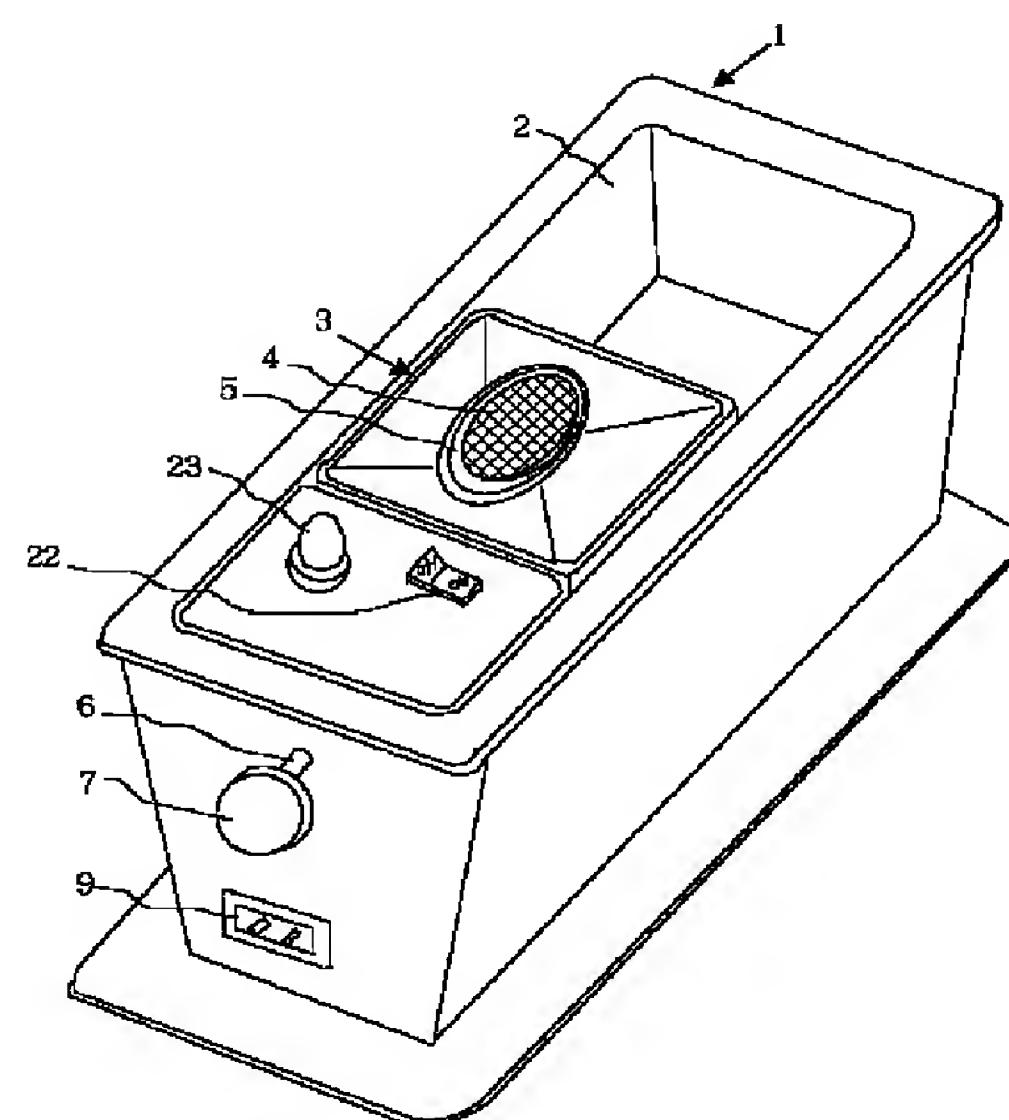
【図3】図3(A)は、本発明の実施例を示す電気香炉

の底面図である。図3(B)は、本発明の他の実施例を示す電気系統図である。

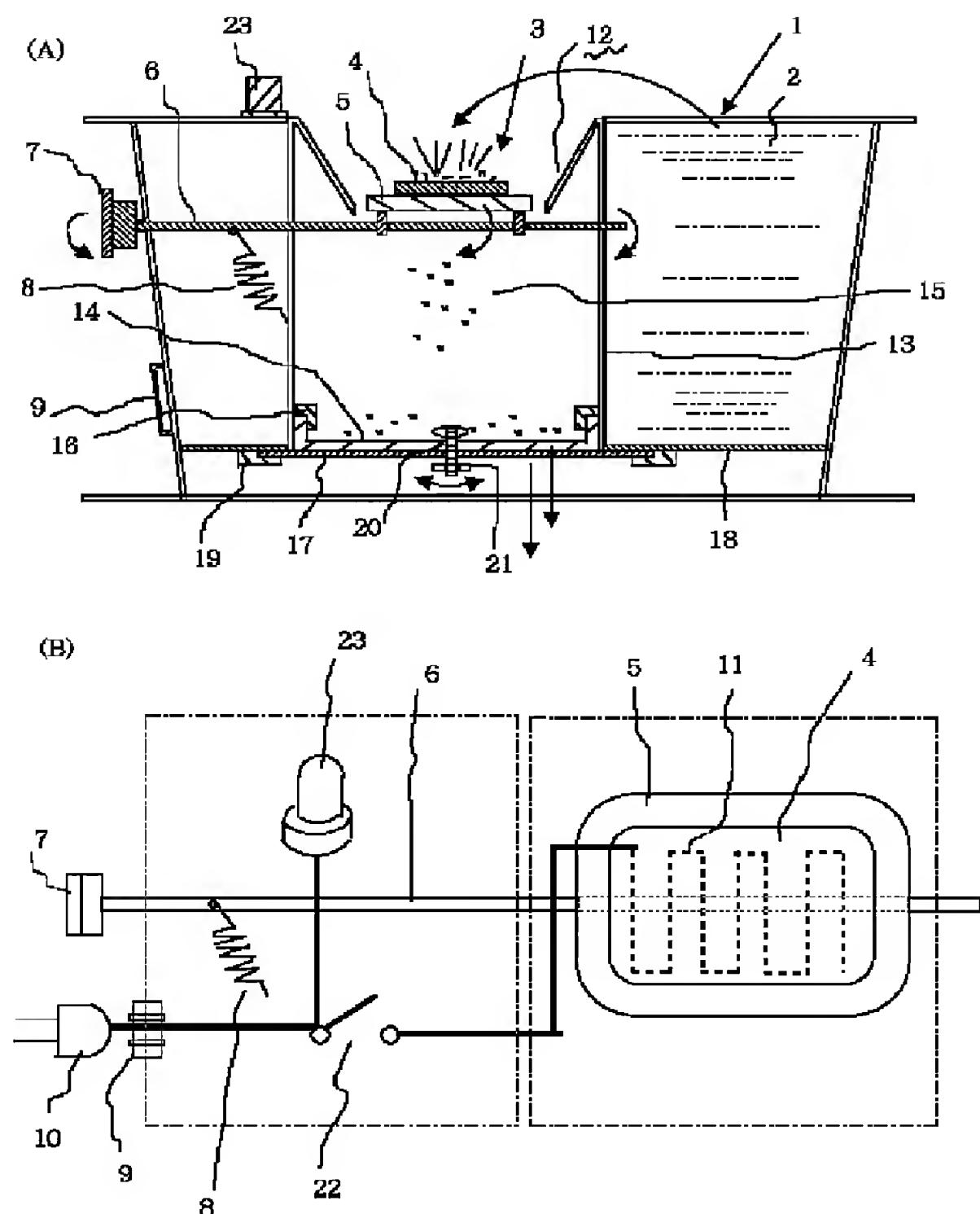
【符号の説明】

- 1…電気香炉
- 2…お香収納部
- 3…香炉部
- 4…燃焼台
- 5…回転台
- 6…回転軸
- 7…把手(つまみ)部
- 8…バネ
- 9…コンセント部
- 10…AC電源入力
- 11…発熱体
- 12…灰受部
- 13…箱体
- 14…蓋体
- 15…燃焼灰
- 16…蓋体挿着部
- 17…蓋体支持桿
- 18…電気香炉本体
- 19…引掛け部
- 20…ネジ
- 21…ナット
- 22…スイッチ部
- 23…標示灯
- 24…電池ボックス
- 25…乾電池

【図1】



## 【図2】



### 【图3】

